

多義的基本動詞「(～) たつ」の意味記述 —コア図式を使って—

小浦方 理恵

学位取得年月：平成19年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】多義語、「(～) たつ」、コア図式、語彙学習支援

【要旨】

本研究では、先行研究で明らかになった多義語習得問題点を解決するための語彙学習支援方法を考えることを目的とし、多義的基本動詞「(～) たつ」を一つの事例として、コア図式による意味記述を行った。

その結果、「(～) たつ」の様々な意味は一つの図式で説明できること、慣用表現の意味もコア図式で表せることを示した。また類義表現との意味的差異や、単純動詞と「～たつ」を伴う複合動詞の意味的差異をコア図式により説明した。

さらに、本動詞「たつ」と複合動詞「～たつ」の意味的つながりを明らかにすることで、本動詞と複合動詞後項の意味を分けて分析するのではなく、どちらの意味も一つの図式によって説明可能であることを示した。

(こうらかた りえ)

実習生の多言語多文化共生日本語教育 イメージの変容

—比喩生成課題にみる役割の認識に着目して—

清水 寿子

学位取得年月：平成19年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】共生日本語教育、実習生、教師の役割、比喩生成課題、イメージ

【要旨】

共生日本語教育イメージを解明するため、実習生12名が準備初期・準備後期・教壇実習後に生成した比喩を分析し、次のことを示した。①実習生は社会に働きかけ、自らも学ぶ教育として共生日本語教育を認識し「共生理念を広めるために教室活動を調整し、参加者に介入し、支援し、導き、変容を促す」という教師役割を形成した。②実習の進行に伴い、参加者を教師や教室に働きかける存在として捉えるようになった。③参加者の能力や資質を知り、内省を深めることが教師観・参加者観の再構築の原因となっていた。以上の結果から、共生日本語教育イメージの形成や教育観の再構築には自己省察と実践の場を経験することが重要であることが示唆された。

(しみず としこ)